

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
6 林 道 維 持 ・ 修 繕 編	2 林 道 修 繕	3 工 場 製 作	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$
					フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$	
					圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell / 1000$	

測定基準		測定箇所	摘要
プレートガーター	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。		
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		I型プレート ガーター
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	主要部材全数を測定。		

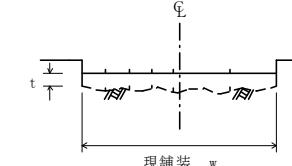
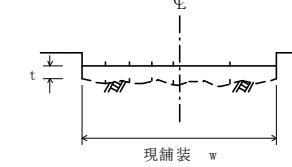
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X ₁₀)
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	3		路面切削工	厚さ t	-7	-2
						幅 w	-25	—
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	4		舗装打換え工	厚さ t	該 当 工 種	
						幅 w	—50	
						延長 L	—100	
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	該 当 工 種	
						幅 w	—25	
						延長 L	—100	
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2
						厚さ t (オーバーレイ)	—9	
						幅 w	—25	
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	5		切削オーバーレイ工	延長 L	—100	
						平坦性	—	3mプロフィルメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
厚さは40m毎に現舗装高さ切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長40m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数、厚さを変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
各層毎1ヶ所／1施工箇所		
厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

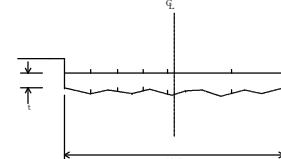
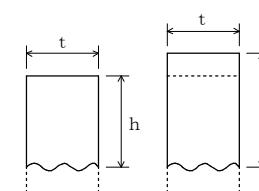
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X ₁₀)
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	6	オーバーレイ工	厚さ t	厚さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
					平坦性			
							3mフロフィルメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下	
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	7	路上再生路盤工	路盤工	厚さ t	-30	
						幅 w	-50	
						延長 L	-100	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長40m未満の場合は、2ヶ所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p> 		維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
幅は延長80m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	
							個々の測定値(X)	平均の測定値(X ₁₀)
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	4 舗装修繕工	8	路上表層再生工	舗設工	厚さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						リペーブの場合再生表層厚 t ₂	-9	
						平坦性	—	2.4
6 林道維持・修繕編	2 林道修繕	5 道路構造物修繕工	3	排水構造物修繕工	嵩上	厚さ t	-20	
						高さ h	-30	
						延長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は延長 80m毎に 1ヶ所の割で測定。 厚さは、1000 m²毎に、現舗装高と舗設後基準高の差を、車線中心線、車線端及びその中心とする。</p> 		
<p>施工延長 40mにつき 1ヶ所、延長 40m以下のものは 1施工箇所につき 2ヶ所。 取壊し寸法又は嵩上げ寸法が変化すれば、変化点毎に測定。</p> 		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
6 林 道 維 持 ・ 修 繕 編	2 林 道 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	7	鋼桁補強工		フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$
						腹板高 h (m)	
						腹板間隔 b' (m)	
						フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$
6 林 道 維 持 ・ 修 繕 編	2 林 道 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	8	伸縮継手修繕工 (ゴムジョイント)		厚さ t_1, t_2	-20
						幅 $w_1 \sim w_4$	-20
						延長 L	設計値以上

測定基準		測定箇所	摘要
プレートガーター	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	I型プレートガーター	
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	トラス弦材	
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
	主要部材全数を測定。		
	伸縮継手の両端部及び中央部の3ヶ所を測定。		

The figure contains four technical drawings.
 1. Top left: A vertical I-beam section labeled 'I型プレートガーター' with dimensions h (height), w (width), and w/2 (width of the flange).
 2. Top right: A truss chord section labeled 'トラス弦材' with dimensions h (height), b (width), and w (width).
 3. Middle left: A side view of a main girder section labeled '主桁' with a dimension w/2 (width of the flange).
 4. Middle right: A top view of an expansion joint end section labeled '伸縮継手の両端部' with dimensions l (length) and delta (angle).

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値
6 林 道 維 持 ・ 修 繕 編	2 林 道 修 繕	6 橋 梁 修 繕 工	10	1	P C 橋支承修繕工・鋼 桁支承修繕工 (鋼製支承)	据付け高さ	±5
						可動支承の橋軸 方向のずれ	±10
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	±5
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向 $1/100$
						橋軸直角方向	$1/100$
						同一支承線上の可動支 承のずれの相対誤差	5
						据付け高さ	±5
						支承中心間隔	±10
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向 $1/300$ 以下、 橋軸直角方向 5 mm 以下

測定基準	測定箇所	摘要
支承全数を測定。		
支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認す る。		